

看護ゼミにゅーす 7月号

2014年7月18日看護ゼミ報告 (7/24ゼミ委員会発行)



演題「路上生活から安定した生活を取り戻すまで ～諦めていた命を救うということ～」

4東病棟 松田さん

路上生活を送りつつ都内の病院の外来透析に通っていたA氏が病状悪化のため当院に入院してきました。はじめは怒鳴ったり、会話が成立しなかったり…。慣れるにつれ笑顔が出て、冗談も言うように。患者参加型看護計画立案では、酸素吸入の必要性を説明すると「肺を守るよ」と同意。安定した生活を送れたことで人間らしさを取り戻し、病状も安定していくようすが伝わってきました。退院後訪問の時の、施設でのA氏の笑顔の写真が素敵でした。



A氏のこと詳しい
MSW趙さん



演題「超重症児とその家族を支える看護 ～Aくんの成長を共に喜び～」 わかくさ訪問看護ステーション 石巻さん

地域には医療機器と医療ケアを必要とする子供たちがいます。

Aくんもそのひとり。気管切開、レスピ、胃ろうなどの管理が必要です。Aくん宅には2つの訪問看護ステーションが入り、役割分担しています。わかくさでは『留守番』『入浴介助』を主に担当しています。Aくんの成長に合わせて、呼吸管理しながら安全安楽な入浴を追求しているようすが、たくさんの写真で伝わってきました。子供たちとその家族の生活を支える訪問看護師の役割がわかる発表でした。



「うちでも小児複数みてます」と

たんぼぼの佐藤所長

学習「気管内吸引の基準変更と カフ圧測定の基準について」 RST 中野さん、大井さん

1つ目に気管内吸引の基準変更の提案がされました。今まで気管内から始めていた吸引を、口腔吸引を先に行い、次に気管内吸引をするというものです。その理由と手順が説明されました。

2つ目は「カフ圧管理」の基準についての説明です。

より安全で統一した看護技術にするために職場への周知期間を置いて、8月から実施することになりました。詳細は基準参照。

ご質問はRSTメンバーまでお願いします!!



RSTとは？

「Respiratory care-support team」の略
呼吸療法サポートケアチームのこと

参加者は73名 今年度1回目の看護ゼミは、2つのすてきな看護実践を聴き、看護技術基準の変更・統一をめざすゼミになりました。

次回の看護ゼミは8月15日(金)17～18時。演題発表は“2階”と“5西”、学習は“緩和ケアの薬剤について”です。みなさんの参加お待ちしております!